

津久戸

令和6年9月30日

10月号 新宿区立津久戸小学校

見方をかえると

副校長 清水 敦子

右の絵をご覧ください。どんな絵に見えたでしょうか。みなさんもお存じだと思いますが、この絵は、デンマークの心理学者エドガー・ルビンが考案した「ルビンのつぼ」と呼ばれる絵です。白地に黒でつぼの形が描かれています。白に注目すると、向かい合ったふたりの顔が見えます。何かのものや人をあらわしている絵なのに、見方によってそれとは別の絵があらわれる「多義図形」と言われるものです。さて、この多義図形のように見方によって様々な捉え方ができるのが私たちの個性なのではないでしょうか。考える際の視点や枠組みを変えていくことで、違った一面を見つけ出せるのです。例えば授業で、挙手してたくさん発表する子と比べて意見を言えない子について、『消極的だ。』『もっと自分の意見を言ってほしい。』と思うかもしれません。ここで、違った捉え方をしてみましょう。「意見を言えない。」のではなく、「あえて言わない。」「じっくり考えている。」「まず、友達の意見を聞いてみようとしている。」など子供の様子をこのような見方で捉えると、個性の捉え方や指導の仕方、その子との関わり方も変わってきます。ここで紹介した見方を変えようとは、全てをよい方向に切り替えて考えなくてはいけないということではありません。物事を多面的にとらえていくことで子供たちの理解を深め、子供たちの成長に効果的な指導や助言をしていくことができるということです。実は私が小学生の頃、大玉送りの白い大玉に薄い緑色を混ぜて塗った絵を描いたことがあったのです。絵を見た友達に「白じゃない」と笑われたのですが、廊下に掲示された絵を見に来た母に、担任の先生が「ただの白じゃなくて、こんな綺麗な色に見えたのですね。この感性を大切にしたいです。」と言ってくれたそうです。もちろん学級でも私の薄い緑色の大玉について担任の先生がよい意味で話題にしてくれたので、私は絵を描くことが嫌いにならずに済みました。この時の先生のように、津久戸小の先生は、いろんな見方をして子供たちの成長を見守っている先生ばかりです。これからも、学校生活での様々な場面で、いつもとは違った子供たちの個性を見出し、活躍できるようにしていきます。



学校図書館から

図書主任

本校の学校図書館は、地域や保護者、ボランティアの方々によって支えられ、充実した読書活動を行うことができます。いつもご協力いただきありがとうございます。

6月の「ファミリー読書」では、保護者の方から温かいコメントをたくさんいただきました。また、今年度も30名以上の図書館ボランティアの参加があり、朝の読み聞かせや掲示物、水曜日の図書館開放など活気ある活動をしていただいています。

その他特色ある取組として、「読書の日」があります。1学期は、読書をひたすら楽しむことはもちろん、図書委員がクイズスタンプラリーを企画・実施しました。2学期には図書ボラの方々、地域協働学校の方々による昨年度のような読書イベントを企画中です。もうすぐ秋。ぜひご家庭でも「読書の秋」をお楽しみください。

まなびの教室について

特別支援教室専門員

まなびの教室では、その子の課題に応じた特別な指導を行っています。そのねらいの一つは、児童一人一人に合った取り組みを行うことで自己理解や自己肯定感を育むことです。また、個別指導や小集団活動を通してコミュニケーションの取り方を学び、自分以外の人と良好な関係を築くことも大切です。ほかにも、姿勢を保持することや身体の動きを高めたりすることで、学校での生活や活動に自信をもって取り組めるようにすることもめあての一つです。

まなびの教室の利用には、区への申請が必要となります。まずは学校へご相談ください。

相談室から

スクールカウンセラー

スクールカウンセラーは校内を巡回し、子供たちとの関わりを大切にしながら見守っています。「友達関係で困っている」「なんか不安」など子供たちの困り事は具体的な悩みから何となく嫌など様々です。このため校内の相談室として気軽に利用してもらえよう相談室運営を目指しています。子供の利用時間は原則、中休みと昼休みとなっています。短い時間ではありますが、子供たちの安心の場となるよう対応しています。

また、保護者の方からのご相談も受け付けていますので、お子様のことで気になることがありましたら、お気軽にご利用ください。

女神湖移動教室を終えて

5年

9月18日から20日までの3日間、長野県にある女神湖移動教室へ行ってきました。この日のために、児童それぞれが準備を進め、期待に胸を膨らませて当日を迎えました。

1日目の夜はあいにくの雨天でキャンプファイヤーができず、室内でのキャンドルファイヤーとなりました。急遽変更になったにもかかわらず、レク係を中心に、思いっきりダンスを踊ったり、楽しくゲームをしたりしました。全力で楽しむことができるという5年生の良さを、改めて感じることができました。2日目も朝から雨が降り、山登りから湿原のハイキングへと変更となりましたが、何千年もかけて形成された湿原を歩き、自然の雄大さと偉大さを感じ取りました。夜には、子供たちが楽しみにしていた星空観察を行いました。班ごとにゴンドラに乗り込み、都会ではなかなか経験できない真っ暗な世界を味わいました。その他にも、うちわ作りトラクター乗車体験など、その場所ならではの体験をし、充実した時間を過ごしました。

3日間を通して子供たちは、「前向きに全力で楽しむこと」「メリハリをつけること」「友達と協力すること」「見通しをもって行動すること」を学びました。移動教室後の学校生活でも、その成長ぶりを発揮しています。

どんな状況でも前向きに全力で楽しむことができることは、5年生の最大の長所です。5年生として残りの半年、さらには来年度、最高学年になっても、津久戸小学校全体を盛り上げていってくださることを期待しています。

保護者の皆さま、出発までの準備やお子さんの体調管理に努めてくださり、ありがとうございました。今後も、5年生の活動にご協力、お願いいたします。

10月の生活目標『人の気持ちを大切にしよう』

- ・気持ちのよいあいさつをしよう。
- ・外で元気に遊ぼう。
- ・友達どうし助け合おう。
- ・言葉づかいをきちんとしよう。

今月の生活目標は、「人の気持ちを大切にしよう」です。自分にその気はなくても、実は相手は嫌がっていることもあります。学校では、日常生活や、道徳の授業等で、相手の気持ちを考えることの指導を行っています。また、相手が嫌ではないと意思表示をしても、行為そのものが、人権意識を欠く言動であった場合も、同様に指導しております。相手のことを考えて生活することを、改めてご家庭でも話題にいただけると幸いです。

(生活指導部)

